

平成26年・鴨川市の10大ニュース（詳細）

順位	できごと（期日）	あらまし
1	本庁舎の耐震補強・大規模改修工事が本格的にスタート （1月～）	鴨川市役所本庁舎の「耐震補強および大規模改修工事」が本格的にスタートしました。庁舎は昭和48年の建築から、今年で40年が経過。施設や設備も老朽化し、耐震診断の結果、大震災の際に倒壊する危険性が高いとの判定を受けました。庁舎は、災害時には対策本部を設置するなど災害拠点施設として、さらに避難施設にもなることから、これらの機能の確保や老朽化した施設の改修、設備の更新など工事を実施しています。期間は平成27年2月までを予定しています。
2	東京オリンピック・パラリンピック大会を「オール鴨川」で全力支援 鴨川市対策推進本部を設立 （7月28日）	市では、平成32年に開催される「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」を支援する「対策推進本部」を設立しました。ここでは、東京オリ・パラ大会関係のキャンプ招致や産業振興に関する検討を実施。今年度は、車椅子バスケットボール競技のモニターキャンプや合宿受け入れなど、大会支援に向けた積極的な取り組みを行います。
3	県南初の女子サッカーチーム 「オルカ鴨川FC」が誕生 （2月24日）	市内で、県南部初の女子サッカーチーム「オルカ鴨川FC」が誕生しました。初代監督には、元浦和レッズレディースのフォワードを務め、なでしこジャパンでも活躍した北本綾子さんが就任。亀田医療大学で行われたキックオフ・パーティーには約150人が出席し、チームの門出を祝いました。オルカの選手たちは、昼間は仕事をしたり、勉学に励みながら、夜間や休日に練習や試合を行い、現在、県1部リーグへの昇格を目標に、日々奮闘を続けています。なお、9月10日には、市民ぐるみでオルカの活動を応援しようと、「オルカ鴨川FC後援会」も発足しました。
4	江見3地区の統合小「江見小学校」、 幼保一元化施設 「江見幼稚園」・「江見保育園」 来年度の開校・開園を目指し起工式 （7月2日）	江見3地区（江見・太海・曾呂）の統合小学校、幼保一元化施設の名称が、「江見小学校」、「江見幼稚園」、「江見保育園」に決まりました。旧江見中学校の敷地内では、統合小学校と幼保一元化施設の建設工事がスタート。工事費総額は10億3,032万円で、平成27年4月の開校・開園を目指して、現在、工事を進めています。

5	<p>市議会議員選挙 新人議員 8 人で新たな顔ぶれに (5 月 25 日)</p>	<p>市議会議員選挙は、市内 25 か所の投票所で行われ、即日開票の結果、新人議員 8 人を含む 20 人の皆さんが選ばれました。当日の有権者数は 2 万 9,176 人、投票者数は 1 万 8,651 人で、投票率は 63. 93% (男 63. 91%、女 63. 94%) でした。なお、6 月に行われた選挙後初の市議会定例会で、新しい議長に辰野利文氏、副議長に庄司朋代氏がそれぞれ選出されました。</p>
6	<p>「秋桜ロードレース」に 330 人が快走 車いす選手のエキシビションも (10 月 13 日)</p>	<p>鴨川北部道路を舞台に、第 1 回「秋桜ロードレース in かもがわ」が開催されました。この大会は、花のまちを PR するとともに、来年 2 月に迎える市制施行 10 周年の記念行事として開催。また、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技の合宿誘致を目指す市では、車いすのエキシビションレースも展開しました。当日は、台風が接近するあいにくの曇り空。時折大粒の雨が降る天候のなか、小学生から一般まで 330 人を超える市民ランナーが出場しました。</p>
7	<p>ロッテマリーンズ秋季鴨川キャンプ 監督、選手、コーチなど 54 人が参加 期間中に 2 万 2,000 人が来場 (11 月 4 日～21 日)</p>	<p>市総合運動施設を拠点に、千葉ロッテマリーンズ「2014 秋季鴨川キャンプ」が実施されました。今回のキャンプには伊東勤監督以下、コーチ・スタッフ、選手の総勢 54 人が参加。選抜された期待の選手が参加していることもあり、ユニフォームを泥だらけにして練習に打ち込み、夜遅くまでバットを振っている選手の姿を見ることができました。また、アップダウンのきつい嶺岡林道約 8 km を投手全員でハイキングするなど、市の特色を活かした練習メニューも取り入れられました。期間中には、市内外から 2 万 2,000 人のファンが来場し、賑わいを見せていました。</p>
8	<p>総事業費は約 4 億 6,000 万円 長狭学園の屋内運動場が完成 (3 月 28 日)</p>	<p>昨年 6 月から建設が進められていた、長狭学園の屋内運動場（体育館）が完成しました。昭和 43 年に建築された以前の施設は、耐震性が低く老朽化が進んでいたため解体し、同じ場所に建て替え工事を行っていたものです。新しい施設は、鉄骨造り平屋建て（1,497. 91 ㎡）で、解体工事を含む総事業費は、4 億 5,958 万 5,000 円となりました。メインアリーナでは、バスケットボールコート 2 面、バレーボールコート 2 面、バドミントンコート 4 面を確保することができ、サブアリーナには低鉄棒 5 連型の機能が備わっています。照明は省エネ効果の高い LED を導入。館内は、木を多く使用した温かみのあるデザインで、採光が十分に確保された明るい空間が広がっています。</p>

9	<p>多目的施設の建設を目指し 整備検討委員会が発足 (2月10日)</p>	<p>体育館機能と文化的機能を併せ持った多目的施設の建設を目指し、整備に関する事項について協議する、「多目的施設整備検討委員会」が発足しました。第1回目の検討委員会では、市議会を始め、スポーツ、文化、観光、学識経験の分野、市民公募委員と、10人の皆さんに委嘱状を交付しました。</p>
10	<p>ふるさと鴨川の将来にご意見を 市内12会場で地区別懇談会を開催 (8月4日～26日)</p>	<p>市では、市内12会場で地区別懇談会を開催しました。この懇談会は、平成28年度を初年度とする新たな「総合計画」の策定および現行の「都市計画マスタープラン」の改定にあたり、市民の皆さんからご意見・ご要望などを伺うために開催しました。</p>